

(4) 分析を踏まえた指導の改善

意識調査の結果から、確かな学力の定着のための指導上の改善点を提言する。

①授業改善の視点

ア 分かる授業を展開し、学習意欲を高めるための工夫改善

設問3で、進んで勉強しようとする気持ちになるのは、「分からないことが分かるようになるとき」「勉強のやり方が分かったとき」を第一にあげている児童生徒が多い。一方、設問4や設問2で、児童生徒の多くは、学年進行とともに学習内容が難しくなり、授業が分からなくなったり、勉強しようとする意欲が少なくなったりしていく傾向が見られる。

このことから、児童生徒一人一人が分かる授業を展開し、学ぶ意欲を喚起することが最優先課題となる。そのため、学年が進行するとともに、特に児童生徒の意識を踏まえた分かる授業づくりに向けた指導の改善や自ら学ぶ意欲を育てるための指導方法や学習環境の工夫が必要である。また、児童生徒一人一人が、学習内容の確かな理解ができるよう、個に応じたきめ細かな指導を充実させることが必要であり、特に、中学1年生における、より丁寧な指導とともに、児童生徒が自ら分からないことを克服するための問題解決の力などを身に付ける必要がある。

また、設問3で、児童生徒は少人数指導やグループ学習が行われるときに、必ずしも学習意欲をもつものではないという結果が見られたことから、授業においては、児童生徒の学習意欲を高め、一人一人が確かな学力を身に付けることにつながる少人数指導やグループ学習の在り方の一層の工夫改善が必要である。

イ 勉強が好きになり、主体的に学ぶことができるようにするための授業の工夫改善

設問2で、自分から進んで勉強しようとする気持ち（意欲）がある児童が約75%、生徒が約60%もいるにもかかわらず、設問1で、勉強が好きな児童は約40～50%、生徒は約20%しかいないという結果が出ている。また、平成13年度の教育課程実施状況調査（国立教育政策研究所）では、教科が好きな児童生徒ほど、各教科の正答率が高いという結果が出ている。よって、教科の授業が好きと思える児童生徒は学習に対する意欲が高まり、その結果としてよく学び、学習内容もよりよく定着するものと考えられる。

このことから、勉強が好きになるような授業を行う必要があると考えられる。そのためには、児童生徒一人一人の実態を踏まえ、より個に応じたきめ細かな指導の充実により、分かる授業を展開することが重要である。また、児童生徒が学習目的を明確にもって主体的に学ぶことができるようにするために、学習することの意義や目的を理解し、目標をもって努力することの大切さを実感させる指導の一層の工夫が大切である。

ウ 社会の変化に主体的に対応する力を育成する指導の工夫改善

設問5で、勉強によって身に付けたい力として、「じっくり考える力」「自ら興味をもって取り組む力」を第一にあげている児童生徒が多い。情報化、国際化等の社会の変化に主体的に対応する力として最も重要であると認識していると思われる。

このことから、学校においては、学習指導要領に示されているとおり、生きる力

を培うことを基本的なねらいとし、児童生徒一人一人が、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する力を身に付けるための指導方法の工夫改善を意図的に実施する必要がある。そのためには、ア、イに示した方法等により、主体的な学習態度を育てていくことが大切である。

②家庭学習や読書習慣の改善の視点

ア 学習習慣、勉強のやり方を身に付ける指導の充実

設問6で、1日の勉強時間は「1時間以上2時間より少ない」児童生徒が約40%で一番多く、「2時間以上」の児童生徒は約20～30%、「1時間より少ない」児童生徒は約30～40%である。設問2、3では、自分から進んで勉強しようとする気持ち（意欲）がある児童が約75%、生徒が約60%であり、進んで勉強しようとする気持ちになれるのは、「勉強のやり方が分かったとき」が多かった。よって、単に意欲がないというよりは、学習習慣が身に付いていないことや自己学習力の弱さ等から、自分で学習することができていない状況が推測される。

さらに、設問8で、児童生徒の約20%が「ドリルや問題集」を活用して学習しており、活用内容として一番多い。その他では、「ノート」の活用が約15%、辞書が約10%となっている。パソコンや新聞等の活用については10%に至っていない。

このことから、自ら課題をもって学習する態度や、家での学習習慣がさらに身に付くよう、教科や領域の学習の中で家庭などでの学び方の指導が必要である。家庭での勉強については、単なるドリル的な宿題等に留まらず、自分でノート等を活用して予習・復習を行ったり、テーマを決めて調べたりするなどの自己学習を行う力を育成していく必要がある。これからの時代を見つめ、パソコンや新聞等を活用するなど多様な学習の仕方も身に付けさせていきたい。また、望ましい学習習慣を身に付けるために、家庭との連携を密にし、児童生徒の学習状況について共通理解を図ることが重要である。学習ノートに、保護者のコメントや教師のアドバイスなどを取り入れるなどして、家庭学習の改善や充実を図りたい。

イ 読書習慣の育成

設問7で、読書をする場合、「10分以上30分より少ない」児童が25%、生徒が20%である。「全く、または、ほとんどしていない」児童生徒は学年進行とともに増加し、生徒においては約40%を占める。

このことから、読書環境の充実や早期からの読み聞かせや課題図書などの読書指導の充実を図りつつ、楽しく読書をする習慣が身に付くような、学校・家庭・地域が一体となった取組みを大切にすることが必要である。